

# 令和7年度 宝塚市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - 地域にある様々な見守り資源・ネットワークの強化と深化
  - 認知症の人の声をもとに、暮らしやすい地域づくりを進める

報告者氏名:野田 眞由美 田中 あかり 河本 祐子  
中原 美都 磯部 ゆりこ 大浦 幸生  
中園 愛 外堀 佳代

# 宝塚市 認知症施策 全体図

## 普及・啓発の推進

- \* 認知症サポーターの養成と活動の場づくり
- \* ステップアップサポーターの養成と活動の場づくり
- \* 小中学校、高校での認知症サポーター養成講座の実施
- \* 関係機関との協働での普及・啓発に対する取り組みの推進

## 適時・適切な医療・ 介護等の提供

- \* いきいき百歳体操の普及推進
- \* ふれあいいきいきサロン活動への助成
- \* 介護保険事業計画に基づく介護サービス基盤の整備
- \* 認知症ケアパスの積極的活用
- \* 阪神圏域認知症疾患医療センターとの連携の推進

## 認知症の人とその家族 への支援

- \* 認知症カフェの活動支援
- \* 認知症の当事者・家族の思いや声を発信できる機会・場の充実
- \* 認知症の当事者・家族と介護関係者の情報交換の場づくり
- \* 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施

## 認知症の人やその家族 の視点の重視

## 高齢者にやさしい 地域づくりの推進

- \* たからづか地域見守り隊活動（宝塚市社会福祉協議会）との協働
- \* 宝塚市認知症高齢者等みまもり登録の活用
- \* 宝塚警察署との連携強化
- \* 宝塚市消費生活センター、防犯交通安全課との連携強化
- \* 高齢者の権利擁護に対する取組の推進

## 若年性認知症施策の強化

- \* 障害福祉課、障害福祉関連事業所等との連携強化
- \* ひょうご若年性認知症支援センターとの連携強化

## 認知症があってもなくても暮らしやすい地域づくりに向けて（宝塚市）

### 認知症の方のつどい場づくり

昨年度に引き続き、認知症当事者同士が気軽に集える場づくりのため、当事者の声を集めました。



#### ○当事者の声を聴く

【方法】「わたしのトリセツ」シートを使い、デイサービス数か所での聞き取りを行った。

\*「わたしのトリセツ」シート：生活行為や趣味などの項目について、“好き”あるいは“したい”と思うことをチェックする。

#### 【工夫したこと】

1. デイサービスのいわゆる空き時間に訪問し、話しやすい雰囲気のもと聞き取りを行った
2. 一方的に聞くのではなく、フリートークの中で聞き出しを行った

#### 【結果・気づいたこと】

- 1, これまでの聞き取りの中で多かった内容と取り組みやすい内容として、買い物・編み物・おしゃべりがあげられる。
- 2, デイサービスでは、利用者同士の会話があまりみられず、推進員が話を聴くときに数名の利用者様が輪の中に入って話が弾む印象が多くみられた。
- 3, デイサービスでは、スタッフが忙しいため、レクリエーション以外の時間は、利用者同士の会話が活発にみられないということが、各デイサービスでの特色はあるものの、共通点として感じられた。

#### 【まとめ】

- ・ 買い物は宝塚阪急でのスローショッピングの取り組みを継続、実施していく。
- ・ 認知症の人が自分の内に秘めた思いを表出できるような場（おしゃべりができる場）を作りたい。

## ○聞き取った内容をつどい場にどうつなげるか

### 【目標】おしゃべりができるつどい場を作る

- ・おしゃべりの場は自然に生み出されることもあるが、誘導や進行するいわゆるファシリテーター的な役割を担う人物が必要である。それをステップアップサポーター養成講座修了者の今後の活動の一つとしてマッチングする。
- ・新たにつどい場を参画することはハードルが高いため、現在ある集まりの場（デイサービスやオレンジカフェ）に、おしゃべりボランティアとしてステップアップ養成講座修了者に入ってもらおう。
- ・いずれは、デイサービスやカフェの中で本人ミーティングの取り組みができれば良いと考える。（本人が内に秘めている思いを表出できるような場を作る）

### 【取り組み内容】

- ・ステップアップ講座の実習先や、聞き取りに協力いただいたデイサービス、カフェ、サロンにボランティアが必要か、相談可能かどうかを確認する。
- ・ステップアップ交流会で、ボランティア活動者の募集をする。
- ・宝塚市のオレンジカフェは8か所あるが、課題の1つに「来てほしい人が来てくれない」ことがあげられる。人に集まっていたくためには、オレンジカフェの周知、啓発活動を行う。（ポスターを市民の方の目の留まりや集まりにくいところへ掲示する、掲示場所を増やす、年に1回程度イベントを行う）

### 【次年度に向けて】

- ・今年度引き続き、カフェの啓発活動を行う。
- ・つどい場でのおしゃべりの中で認知症本人の視点での声を聴き、よりよい暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に考える機会を増やす。



# スローショッピングの取り組み

## 宝塚阪急でのスローショッピング

宝塚阪急と宝塚市が包括連携協定を締結、  
令和6年度よりプレ実施でスローショッピングの取り組みを開始。

- 現在は認知症対応型施設の利用者の方が参加。
- お買い物ボランティアとして、ステップアップサポーターも参加。



車いすで、果物売り場へ。  
季節を感じながら、会話は  
はずみずみ。

## 宝塚阪急+スローショッピング

- 「宝塚阪急で買い物をする」 ということの意味
- 「買い物をする楽しみ」が減っている現状

“阪急さん”で  
買い物するのよ😊

→ 「**認知症になっても安心して買い物を楽しむこと**」ができる環境をつくりたい

始めは硬い表情をされていた方も、買い物をするうちに笑顔が見られるように。

今後この取り組みを継続し、

他のスーパーにも

広がっていきたい。



お寿司売り場は、毎回大人気。  
車いすから立ち上がって商品  
を選びます。  
キラキラ輝くお寿司に笑顔が  
こぼれます。



# オレンジカフェを地域に広める

2025年12月17日 オレンジカフェ交流会開催

「オレンジカフェに、来てもらいたい人に来てもらえるようにするためには、どんな工夫が必要か」

? 来てもらいたい人 ?



誰にも言えなくて悩んでいる人。



当事者、家族だけでなく、予防として社会的に孤立している方にも来てほしい。

(認知症になっても大丈夫だと思ってもらいたい)



自由に話してもいい場所だと思う。

? どんな工夫 ?



ケアマネジャーや、介護事業所にも知ってもらい、紹介してもらえるようにする。

【オレンジカフェを地域に広めるための取り組み】

- ・カフェ紹介の展示を行う。カフェチラシ・ポスターをリニューアルし市内の病院や施設に展示する。
- ・オレンジカフェチラシ・ポスターを、市内のクリニックや薬局に掲示する。
- ・各カフェの案内もリニューアルし、手に取って見ていただけるよう各包括に置く、ホームページにも掲載する。



## 若年性認知症の人と家族の居場所づくり

宝塚ボランティアプラザZukavoに若年性認知症の人の居場所についての問い合わせが複数あったこと、若年性認知症の人の支援の中で、利用できる資源が乏しいために困る場面があることから、居場所づくりについて検討を始めた

どんな居場所が必要？

- ・今どこにもつながっていない若年性認知症の人がつながる場にしたい
- ・若年性認知症の人の声を集約して届ける場にしたい

### 1. 他市の会の運営を見学

宝塚市で実施する際に必要なことについて、情報収集を行った

- ➡ 一番必要なのは、“中心となって動ける人”
- ➡ 声をかけられそうな協力者について、推進員で検討

### 2. 若年性認知症について理解を深めるためのイベントの検討

- ➡ 当事者の話を直接聞ける機会を設ける



令和8年度末の実現をめざして、検討を続けていく

## 認知症地域支援推進員のスキルアップと活動の継続のために

近隣市町の担当者と「認知症地域支援推進員って何をすればいいのか、推進員の迷いはずっと続いているよね」「でも、今やっていることが間違っていないって、確認できる場があれば迷いも減るのでは？」という話になり、みんなでお互いに認め合い、さらに、スキルアップにもなる場をつくろう！！ということで、「阪神北圏域 認知症地域支援推進員交流会」を開催しました。

当日は、川西市、三田市、猪名川町、宝塚市から27名の推進員が参加。

各推進員の活動を発表後、グループで「アイデアを、これからの自分たちの活動につなぐために必要なこと」等を話し合いました。

時間が足りなくなるほど、活発な意見交換ができ、今後の活動への収穫も得ることができました。



最後に・・・

当事者のしたいことを実現する場＝ステップアップサポーターの活動の場として、場づくりも少しずつ見えるようになり始めました。

認知症があってもなくても、いきいきと過ごせる地域づくりに、継続して取り組みたいと思います。